

資料編

資料 1

平成30年度
大田区多文化共生実態調査
【報告書概要版】

資料 2

国際都市連携調整会議設置要綱

資料 3

「国際都市おおた」多文化共生推進プラン策定の経過

平成30年度
大田区多文化共生実態調査
【報告書概要版】

平成30年11月

大田区

本調査の概要

① 調査概要

(1) 目的

この調査は、大田区内の外国人(調査対象2,000人)および日本人(調査対象1,000人)の意識・要望を把握し、その結果を、「(仮称)大田区多文化共生推進プラン」の策定に反映させ、今後の多文化共生に向けた事業展開に役立てることを目的として実施した。

(2) 調査設計

外国人区民調査、日本人区民調査それぞれの調査設計は、以下のとおりである。

	外国人区民調査	日本人区民調査
調査地域	大田区内全域	大田区内全域
調査対象	区内に在住する外国籍区民 18歳以上の個人2,000人	区内に在住する日本国籍区民 18歳以上の個人1,000人
調査方法等	抽出方法：住民基本台帳からの 無作為抽出 調査方法：郵送配布－郵送回収 (礼状兼回答依頼のハガキ1回) ※日本語ルビ付版と対象者の国籍に合わせた 翻訳版の調査票を同封	抽出方法：住民基本台帳からの 無作為抽出 調査方法：郵送配布－郵送回収 (礼状兼回答依頼のハガキ1回)
仕様言語	英語、中国語、韓国・朝鮮語、タガログ 語、ネパール語、日本語ルビ付	日本語
調査期間	平成30年6月27日～7月13日	平成30年6月13日～6月29日

(3) アンケート調査の回収状況

アンケート調査の回収状況は、以下のとおりである。

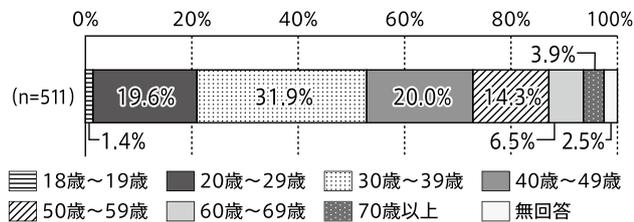
	外国人区民調査	日本人区民調査
標本数	2,000	1,000
郵送物未着数	194	19
調査対象数	1,806	981
有効回答数	511	460
有効回答率	25.6%	46.0%

外国人区民調査の結果

① 回答者の属性

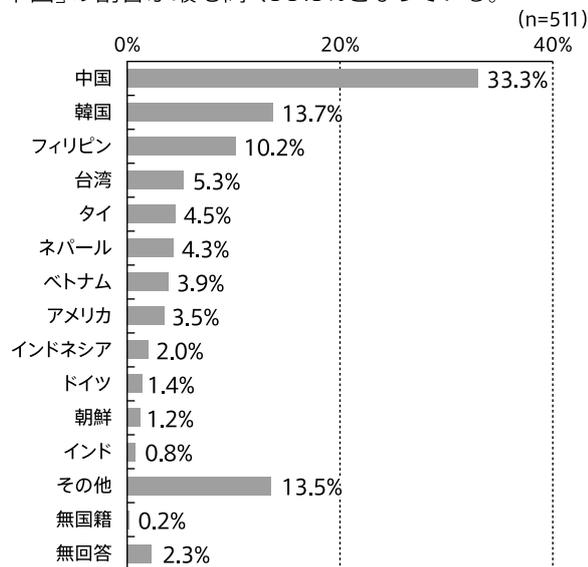
(1) 回答者の年齢(単一回答)

「30歳～39歳」の割合が最も高く31.9%となっている。



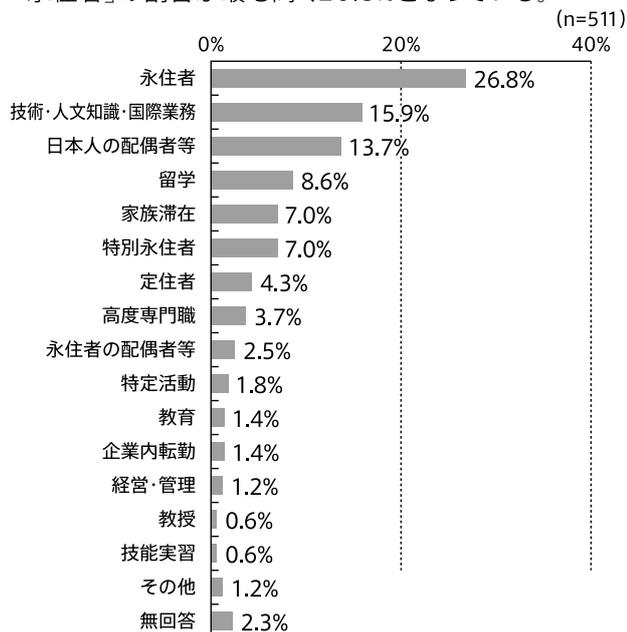
(2) 回答者の国籍・地域(単一回答)

「中国」の割合が最も高く33.3%となっている。



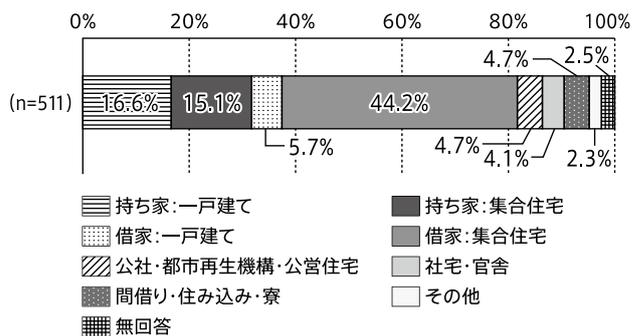
(3) 回答者の在留資格(単一回答)

「永住者」の割合が最も高く26.8%となっている。



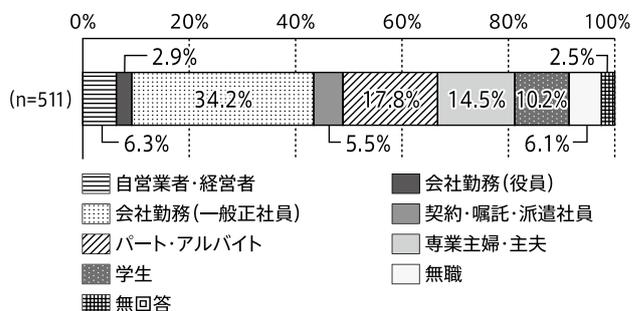
(4) 回答者の住居形態(単一回答)

「借家:集合住宅」の割合が最も高く44.2%となっている。



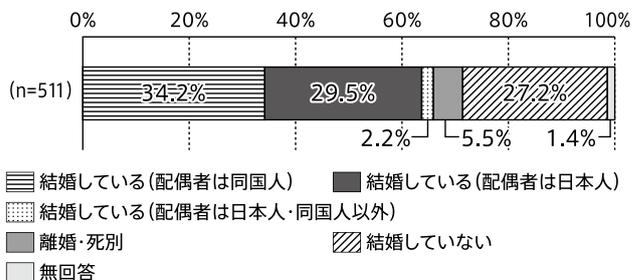
(5) 回答者の職業(単一回答)

「会社勤務(一般正社員)」の割合が最も高く34.2%となっている。



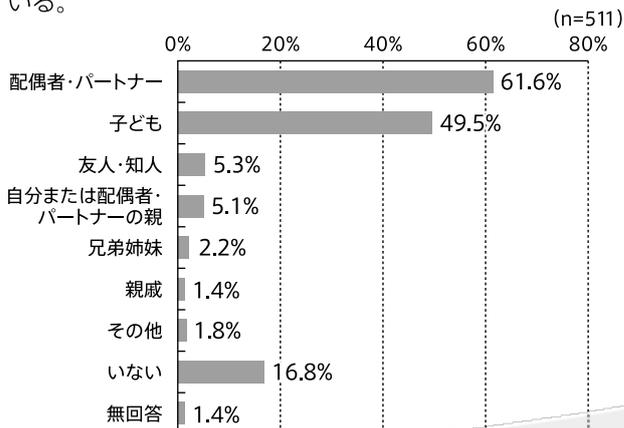
(6) 回答者の結婚の有無(単一回答)

「結婚している(配偶者は同国人)」の割合が最も高く34.2%となっている。



(7) 回答者の同居者(複数回答)

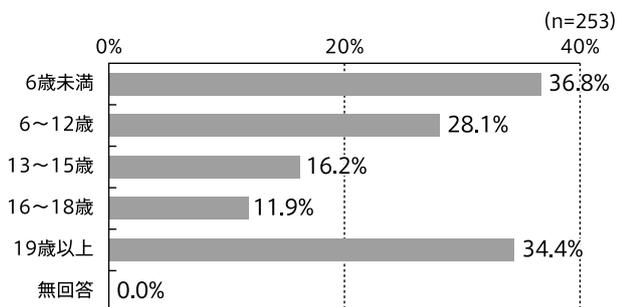
「配偶者・パートナー」の割合が最も高く61.6%となっている。



(8) 回答者の子どもの年齢(複数回答)

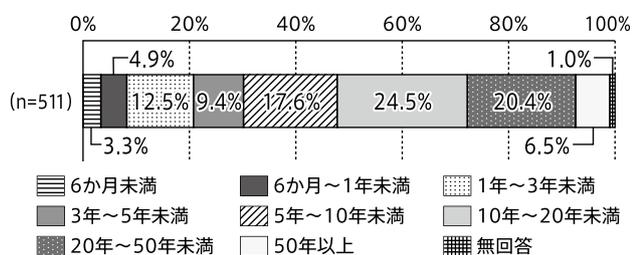
同居家族について、「子ども」と回答した人に、子どもの年齢について尋ねた。

「6歳未満」の割合が最も高く36.8%となっている。



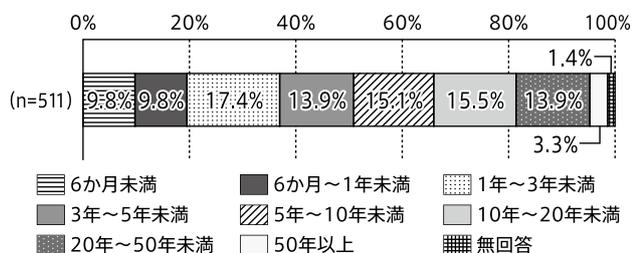
(9) 日本での在住年数(単一回答)

「10～20年未満」の割合が最も高く24.5%となっている。



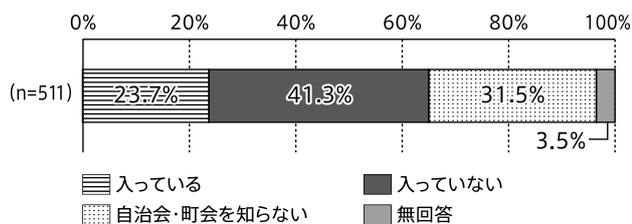
(10) 大田区での在住年数(単一回答)

「1～3年未満」の割合が最も高く17.4%となっている。



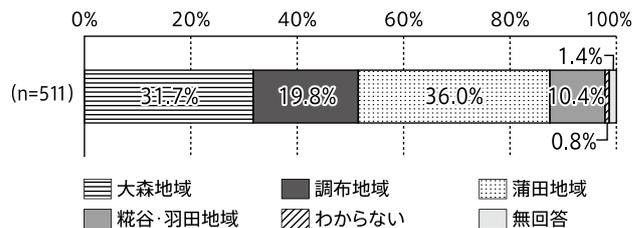
(11) 自治会・町会への加入状況(単一回答)

「入っていない」の割合が最も高く41.3%となっている。



(12) 回答者の居住地(単一回答)

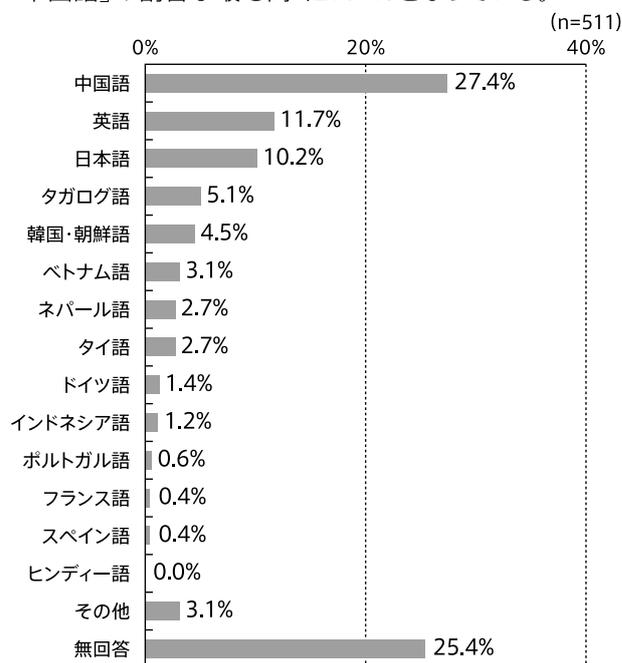
「蒲田地域」の割合が最も高く36.0%となっている。



2 ことばについて

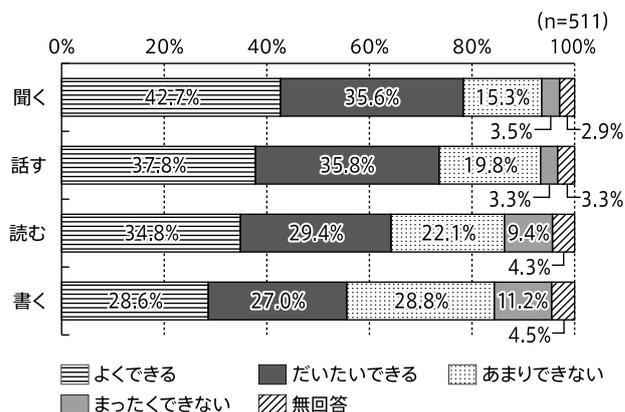
(1) 最も得意な言語(単一回答)

「中国語」の割合が最も高く27.4%となっている。



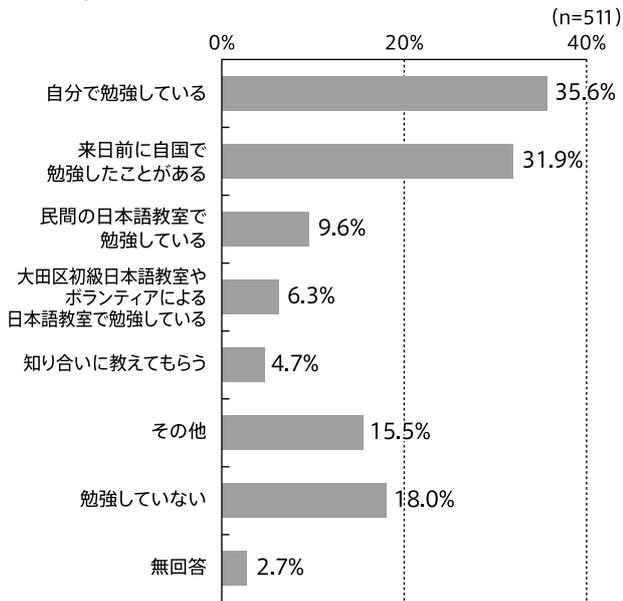
(2) 日本語能力(各項目単一回答)

日本語を聞く能力及び話す能力については、「よくできる」と「だいたいできる」をあわせた割合が7割を超えている。また、日本語を読む能力は、「よくできる」と「だいたいできる」をあわせた割合は、約6割程度となっている。一方、日本語を書く能力は、「よくできる」と「だいたいできる」をあわせた割合は、約5割程度に留まる。



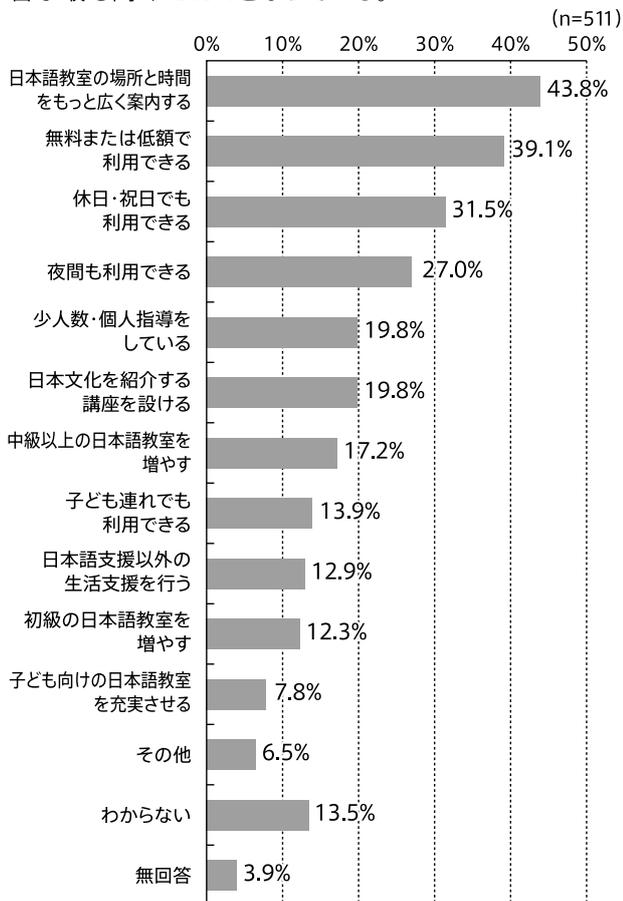
(3) 日本語の勉強に関する状況(複数回答)

「自分で勉強している」の割合が最も高く35.6%となっている。



(4) 日本語教室がもっと利用しやすくなるために大切なこと(複数回答)

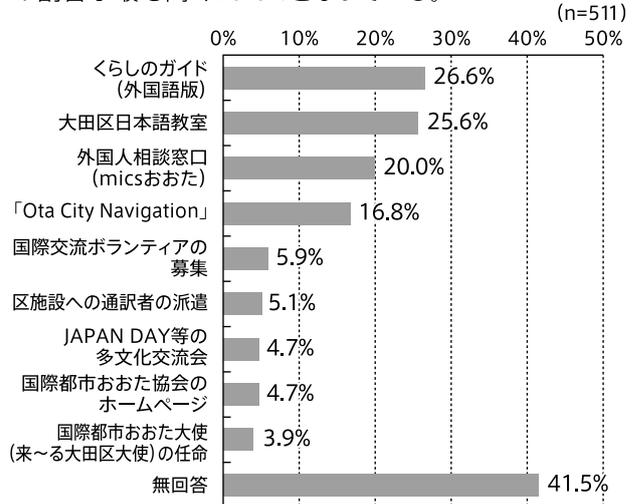
「日本語教室の場所と時間をもっと広く案内する」の割合が最も高く43.8%となっている。



③ 大田区の取組への評価について

(1) 多文化共生に関するサービスや取組等の認知度(複数回答)

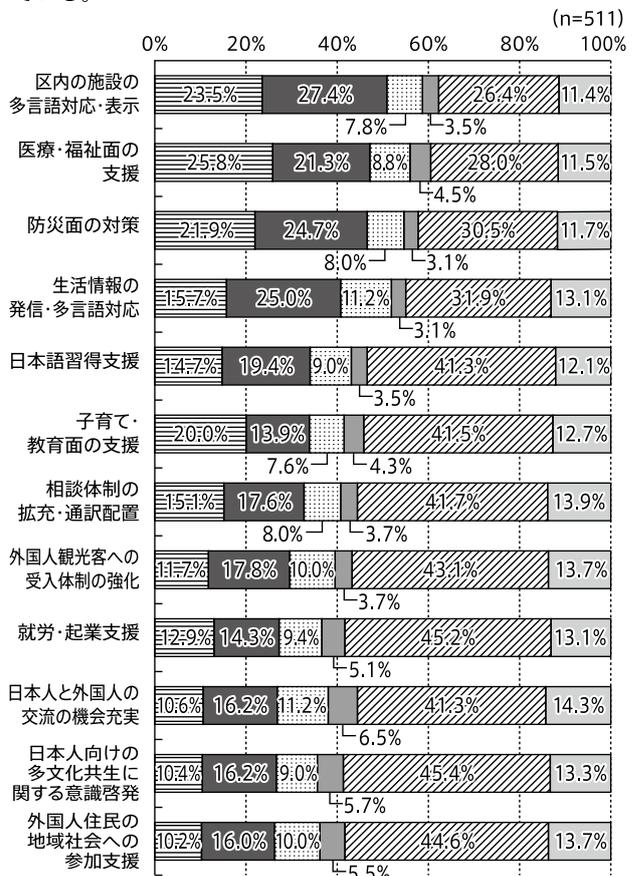
回答があった項目のうち、「暮らしのガイド(外国語版)」の割合が最も高く26.6%となっている。



(2) 大田区の施策に対する満足度・必要度

① 大田区の施策に対する満足度(各項目単一回答)

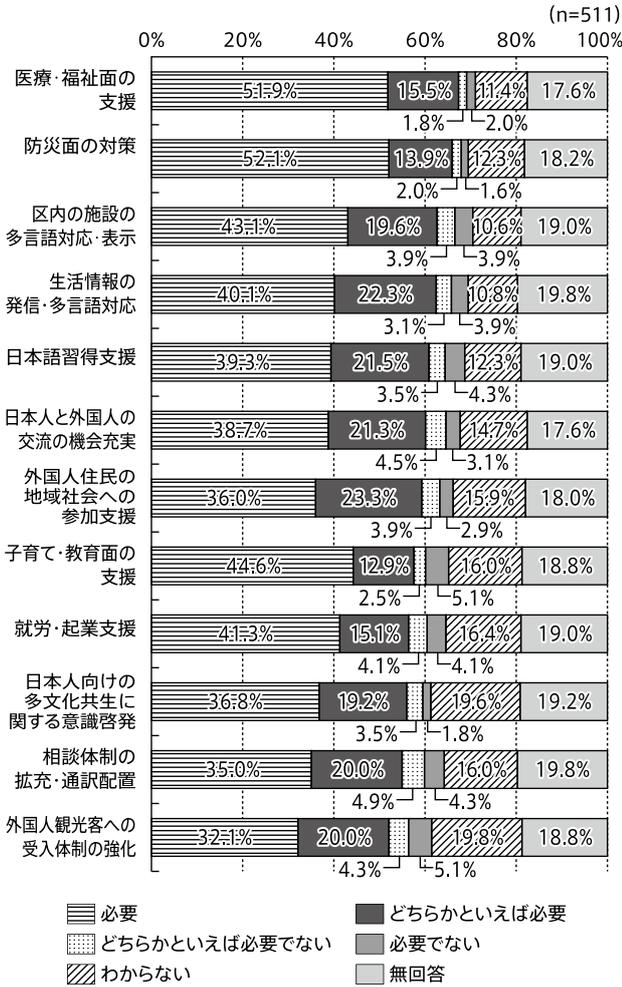
「満足」「どちらかといえば満足」を足した割合が最も高い項目は「区内の施設の多言語対応・表示」で50.9%となっている。



資料編

②大田区の施策に対する必要度(各項目単一回答)

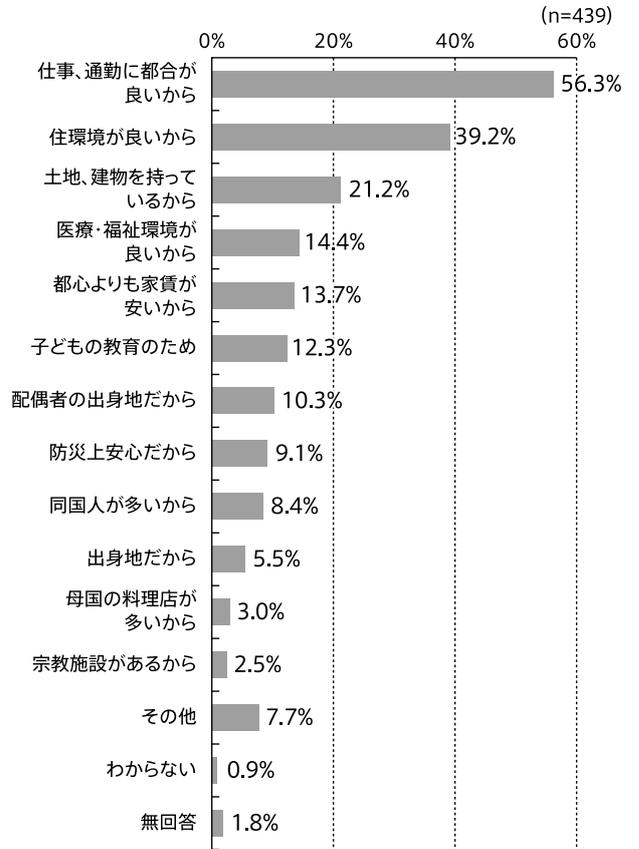
「必要」「どちらかといえば必要」を足した割合が最も高い項目は「医療・福祉面の支援」で67.4%となっている。



①これからも大田区に住みたい理由(複数回答)

定住意向について、「ずっと住みたい」または「当分は住みたい」と回答した人に、その理由を尋ねた。

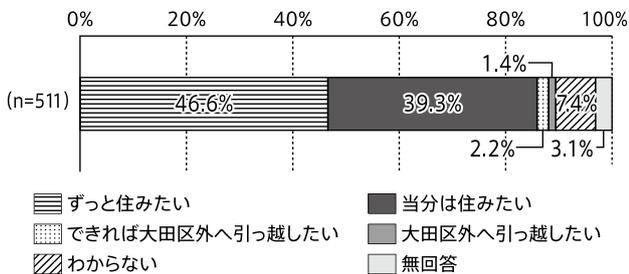
「仕事・通勤に都合が良いから」の割合が最も高く56.3%となっている。



4 日ごろの暮らしについて

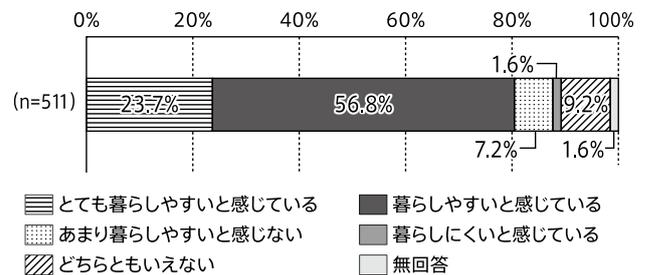
(1) 定住意向(単一回答)

「ずっと住みたい」の割合が最も高く46.6%となっている。



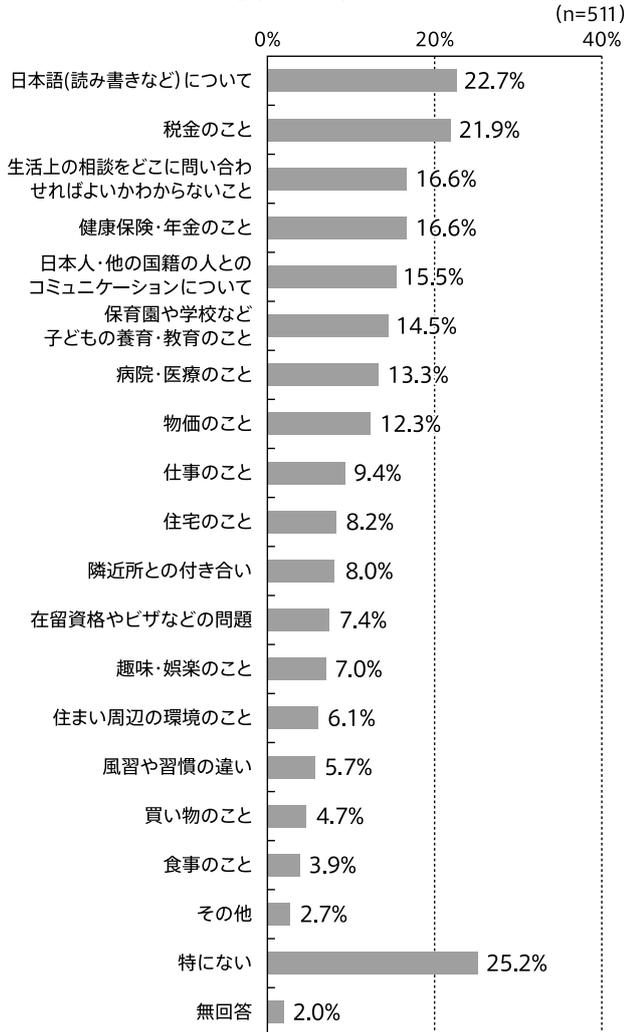
(2) 現在住んでいるまちの暮らしやすさ(単一回答)

「暮らしやすいと感じている」の割合が最も高く56.8%となっている。



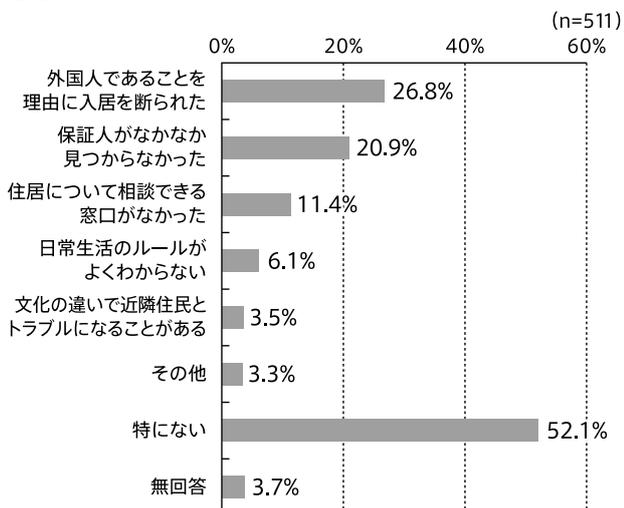
(3) 日常の暮らしの中で不便を感じていることや困っていること

「特にない」の割合が最も高く25.2%となっている。次いで、「日本語について」(22.7%)となっている。



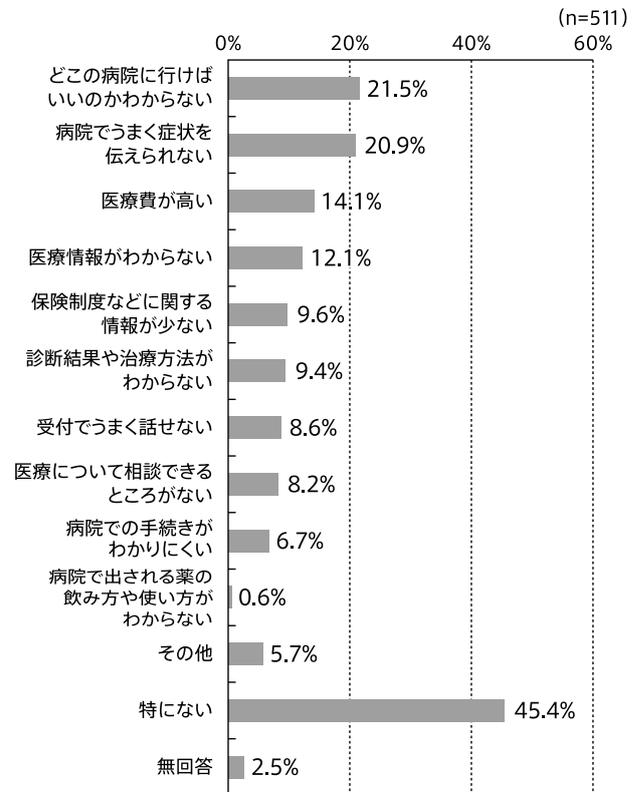
(4) 住まいに関して困ったこと(複数回答)

「特にない」の割合が最も高く52.1%となっている。次いで、「外国人であることを理由に入居を断られた」(26.8%)となっている。



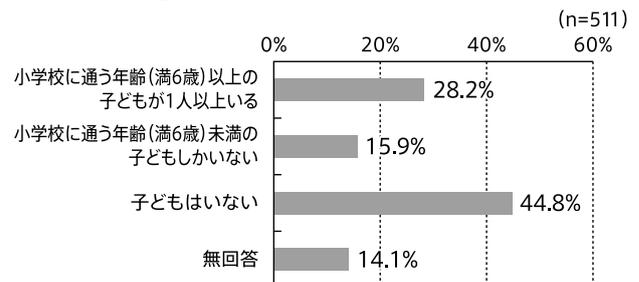
(5) 病院を利用する際に困ったこと(複数回答)

「特にない」の割合が最も高く45.4%となっている。次いで、「どこの病院に行けばいいのかわからない」(21.5%)となっている。



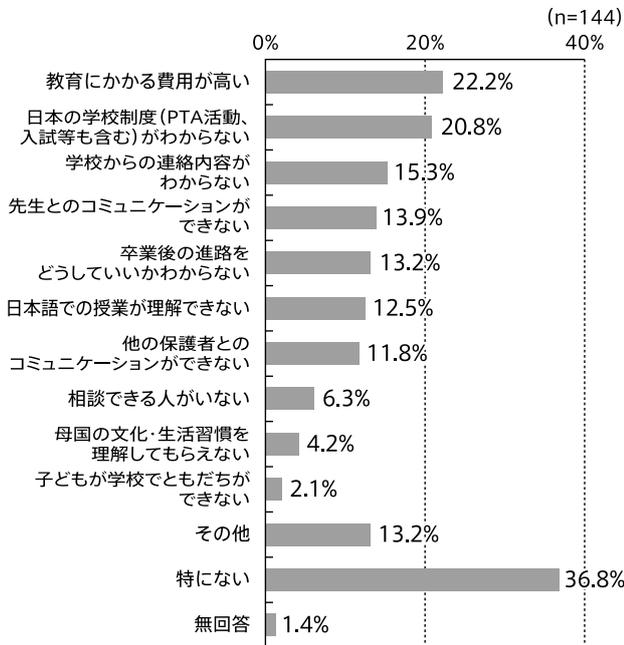
(6) 子どもの有無(複数回答)

「子どもはいない」の割合が最も高く44.8%となっている。次いで、「小学校に通う年齢(満6歳)以上の子どもが1人以上いる」(28.2%)となっている。



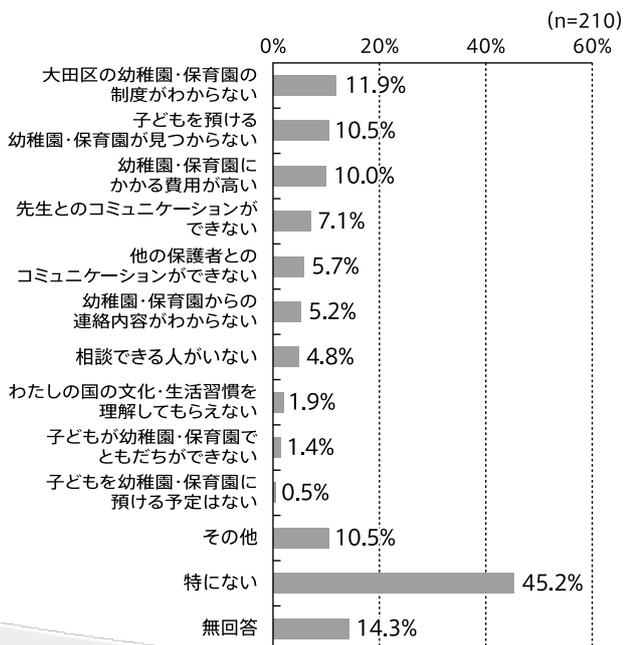
①子ども又は回答者自身が学校で困ったこと(複数回答)

子どもの有無について、「小学校に通う年齢(満6歳)以上の子どもが1人以上いる」と回答した人に、子ども又は回答者自身が学校で困ったことについて尋ねた。「特にない」の割合が最も高く36.8%となっている。次いで、「教育にかかる費用が高い」(22.2%)となっている。



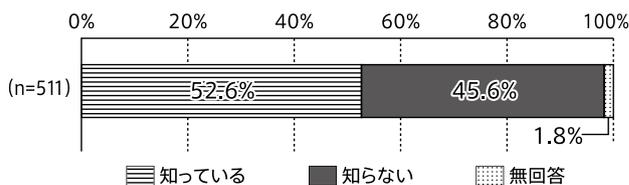
②回答者の子ども、または回答者自身が幼稚園・保育園で困ったこと(複数回答)

子どもの有無について、「小学校に通う年齢(満6歳)以上の子どもが1人以上いる」または「小学校に通う年齢(満6歳)未満の子もしかない」と回答した人に、子ども又は回答者自身が幼稚園・保育園で困ったことについて尋ねた。「特にない」の割合が最も高く45.2%となっている。次いで、「大田区の幼稚園・保育園の制度がわからない」(11.9%)となっている。



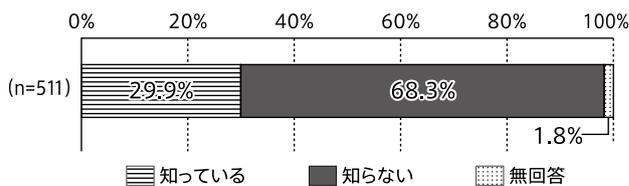
(7)地域の避難先の認知度(単一回答)

「知っている」の割合が最も高く52.6%となっている。



(8)地域で行われている防災訓練の認知度(単一回答)

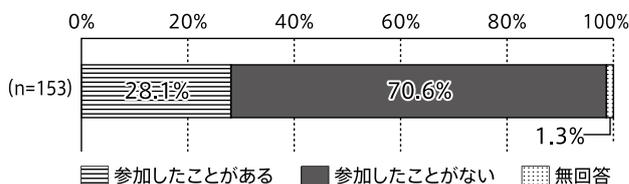
「知らない」の割合が最も高く68.3%となっている。



①地域で行われている防災訓練への参加経験(単一回答)

防災訓練の認知度について、「知っている」と回答した人に、地域で行われている防災訓練への参加経験について尋ねた。

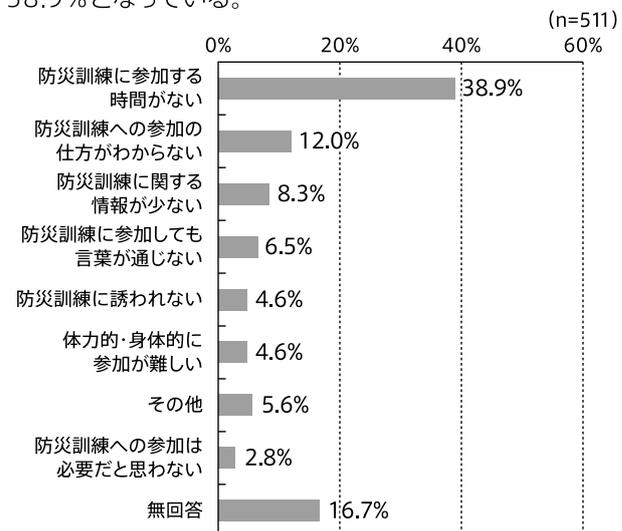
「参加したことがない」の割合が最も高く70.6%となっている。



②地域で行われている防災訓練に参加したことがない理由(単一回答)

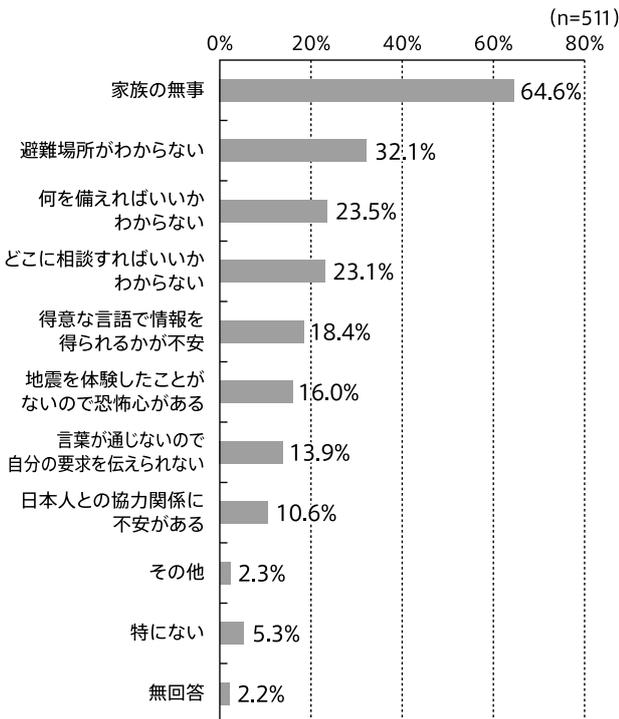
防災訓練について、「参加したことがない」と回答した人に、その理由を尋ねた。

「防災訓練に参加する時間がない」の割合が最も高く38.9%となっている。



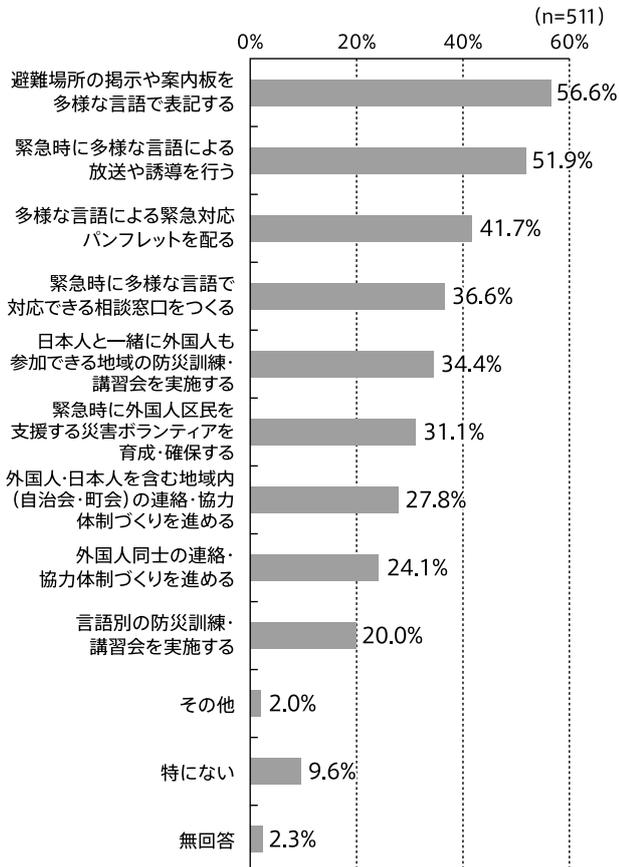
(9) 災害が起きた時に心配なこと(複数回答)

「家族の無事」の割合が最も高く64.6%となっている。



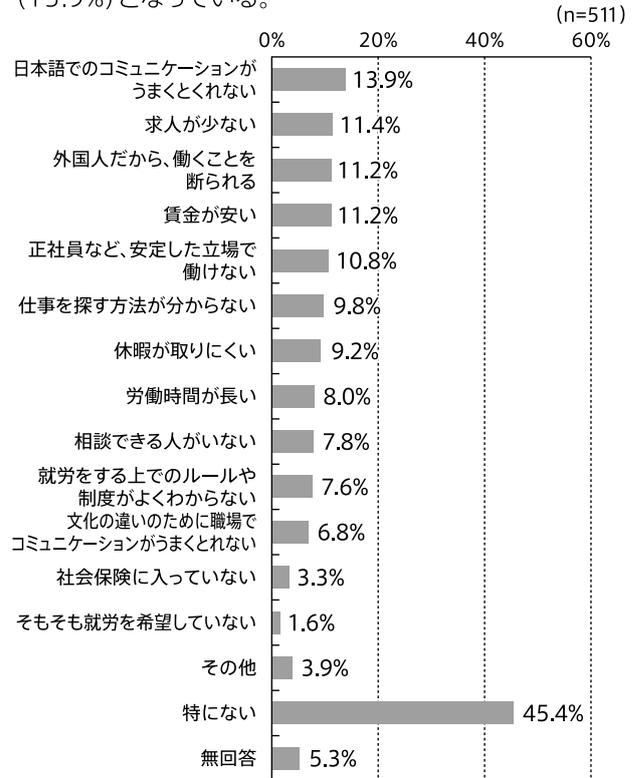
(10) 地震などの災害が起きたとき、大田区に 望む防災対策(複数回答)

「避難場所の掲示や案内板を多様な言語で表記する」の割合が最も高く56.6%となっている。



(11) 就労する上で困ったこと(複数回答)

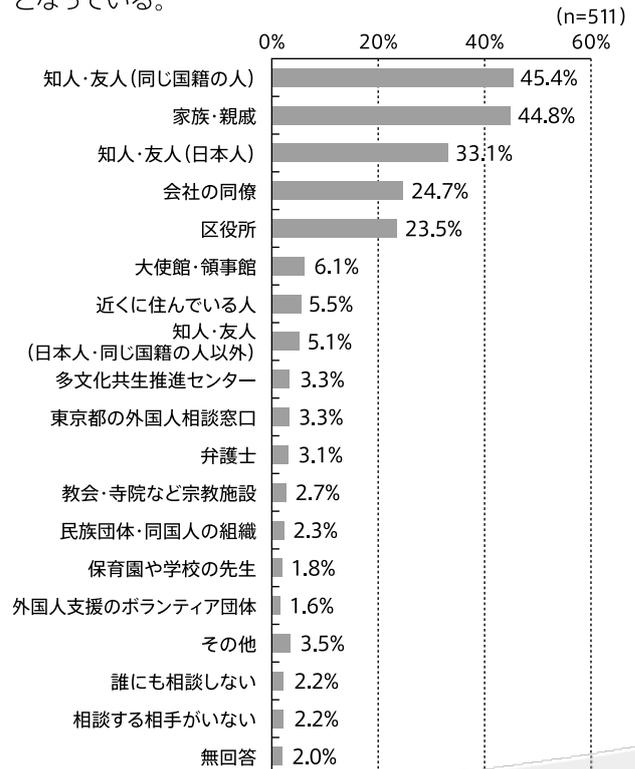
「特になし」の割合が最も高く45.4%となっている。次いで、「日本語でのコミュニケーションがうまくとれない」(13.9%)となっている。



5 情報提供・相談体制について

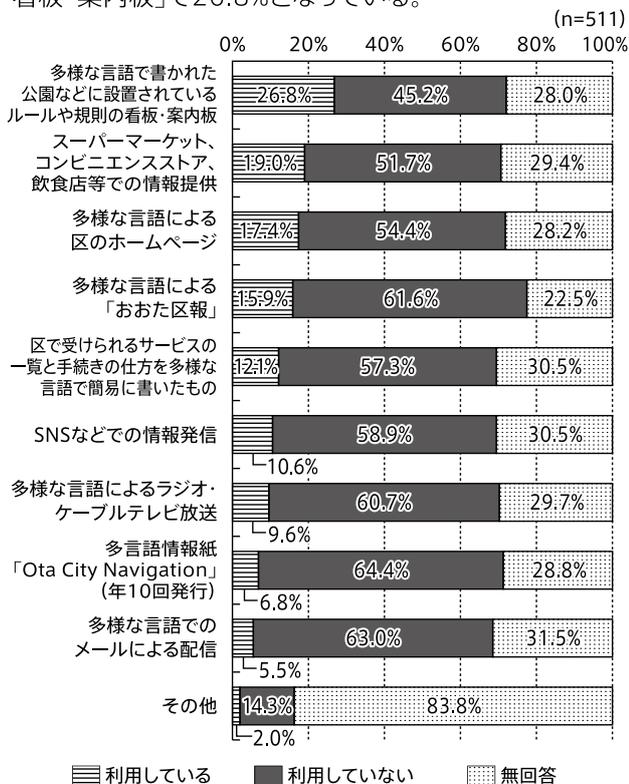
(1) 生活で困ったときの相談先(複数回答)

「知人・友人(同じ国籍の人)」の割合が最も高く45.4%となっている。



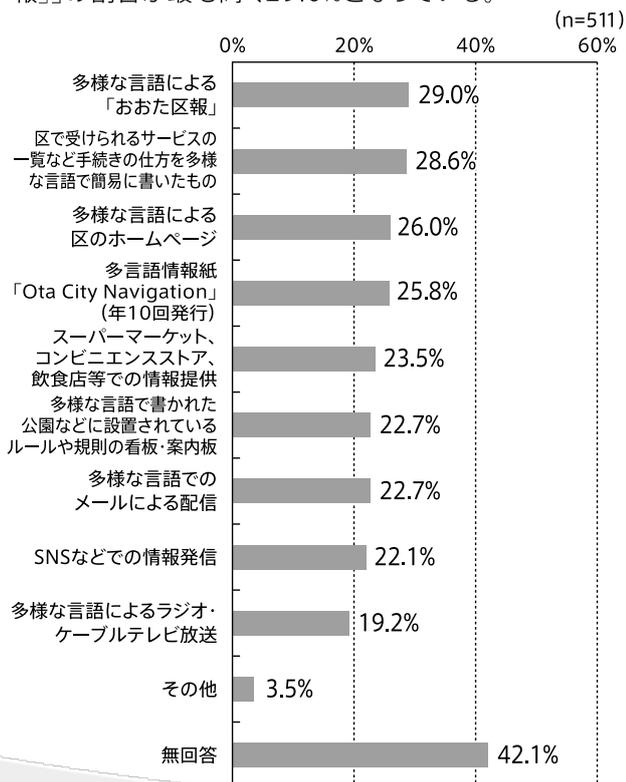
(2) 情報収集にあたって利用している手段 (単一回答)

「利用している」の割合が最も高い項目は「多様な言語で書かれた公園などに設置されているルールや規則の看板・案内板」で26.8%となっている。



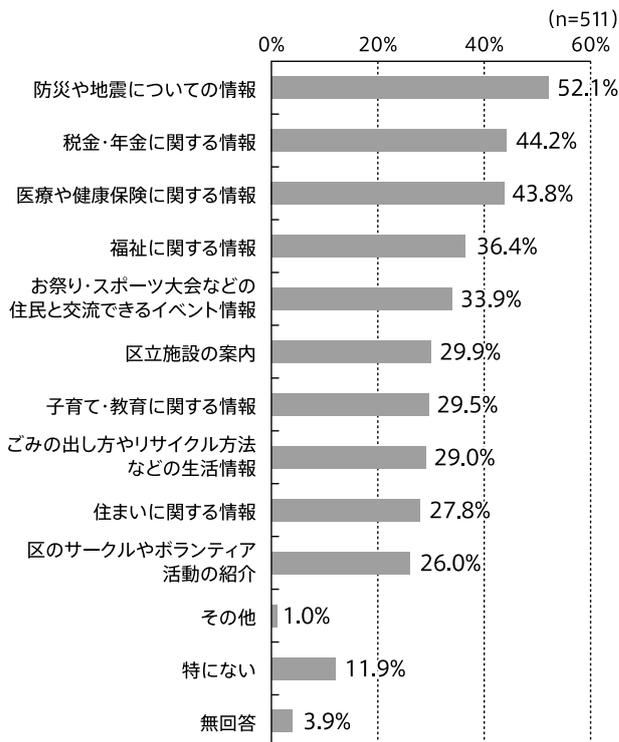
(3) 行政サービス等の周知手段の希望 (複数回答)

回答があった項目のうち、「多様な言語による「おおた区報」」の割合が最も高く29.0%となっている。



(4) 生活していく上で必要な情報 (複数回答)

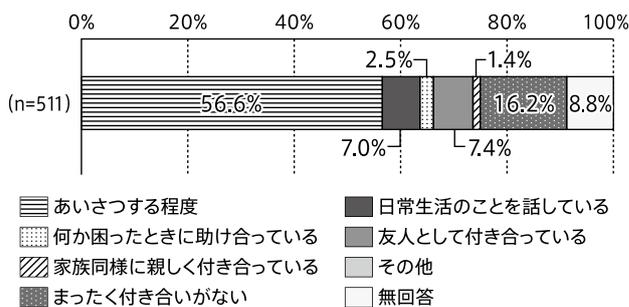
「防災や地震についての情報」の割合が最も高く52.1%となっている。



6 地域での交流について

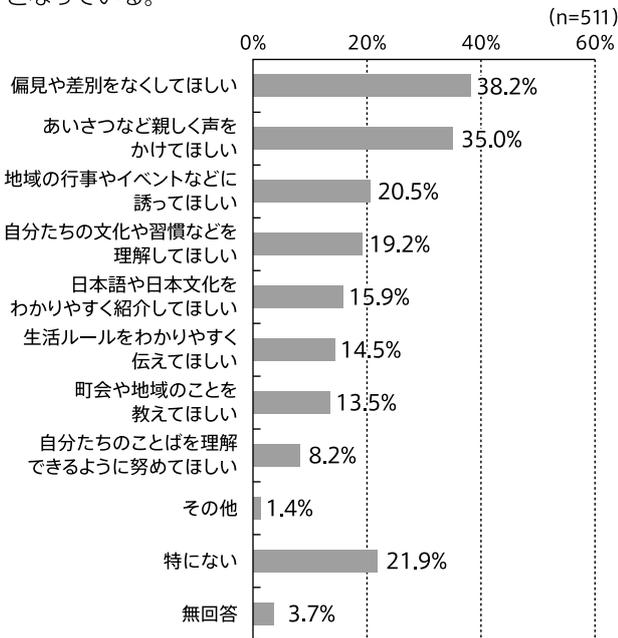
(1) 近くに住む日本人との付き合い (単一回答)

「あいさつする程度」の割合が最も高く56.6%となっている。



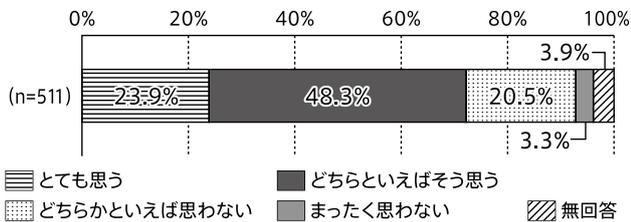
(2) 地域社会の一員として日本人に望むこと (複数回答)

「偏見や差別をなくしてほしい」の割合が最も高く38.2%となっている。



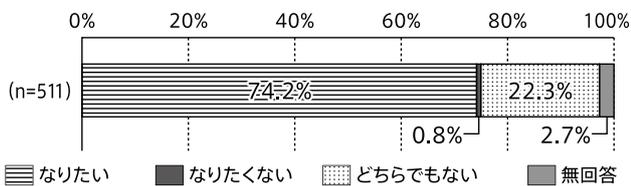
(3) 大田区では、日本人と外国人が互いに認め合い、暮らしていると思うか (単一回答)

「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く48.3%となっている。



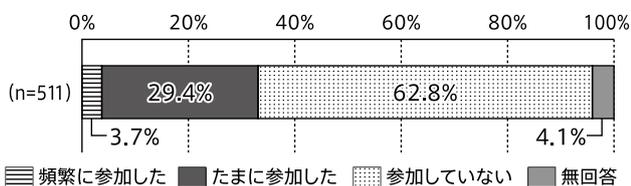
(4) 地域の日本人ともっと仲良くなりたいか (単一回答)

「なりたい」の割合が最も高く74.2%となっている。



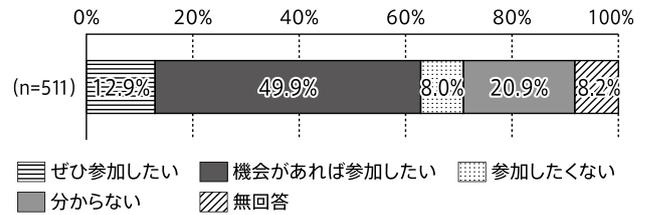
(5) 直近1年間の地域活動への参加状況 (単一回答)

「参加していない」の割合が最も高く62.8%となっている。



(6) 地域活動への今後の参加意向 (単一回答)

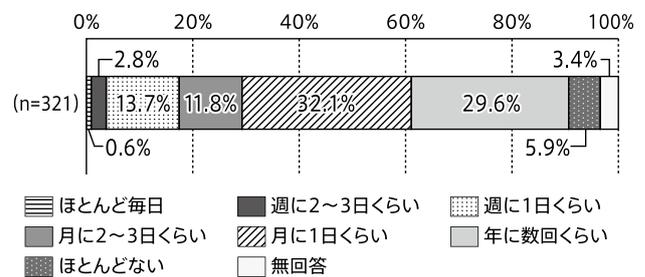
「機会があれば参加したい」の割合が最も高く49.9%となっている。



(7) 今後、地域活動に参加できる時間 (単一回答)

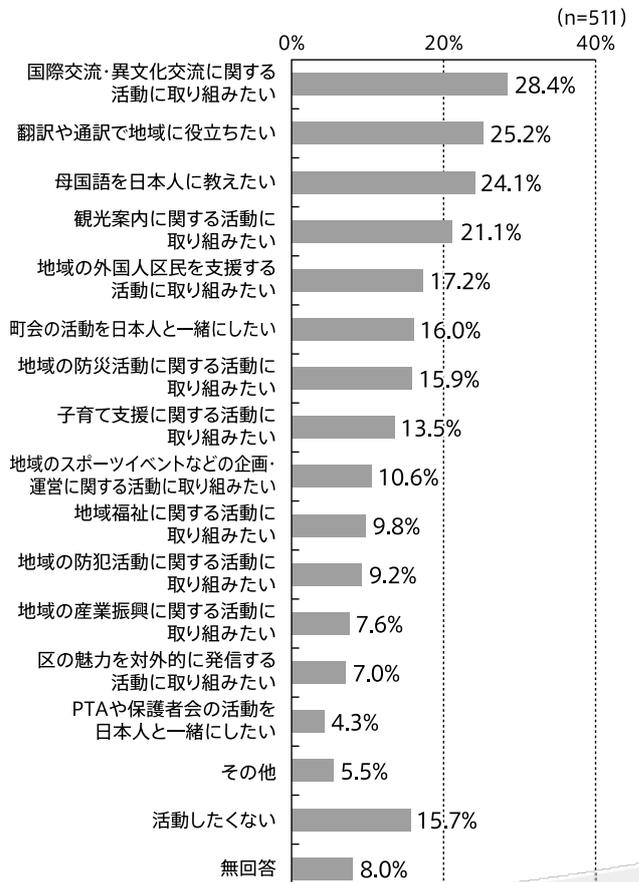
地域活動への今後の参加意向について、「ぜひ参加したい」または「機会があれば参加したい」と回答した人に、参加できる時間を尋ねた。

「月に1日くらい」の割合が最も高く32.1%となっている。



(7) 地域の中で活動してみたいこと (複数回答)

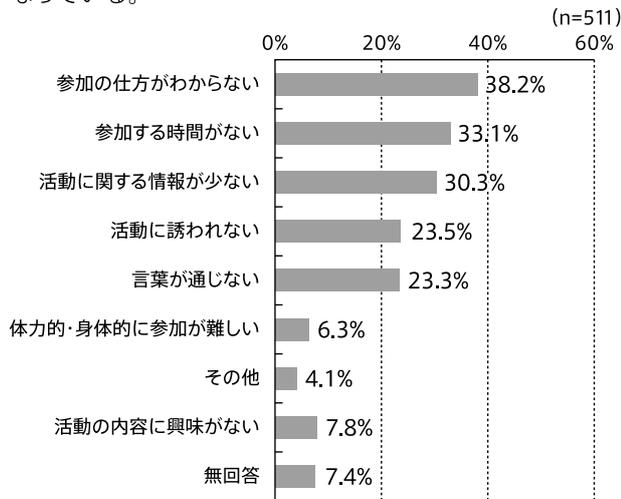
「国際交流・異文化交流に関する活動に取り組みたい」の割合が最も高く28.4%となっている。



資料編

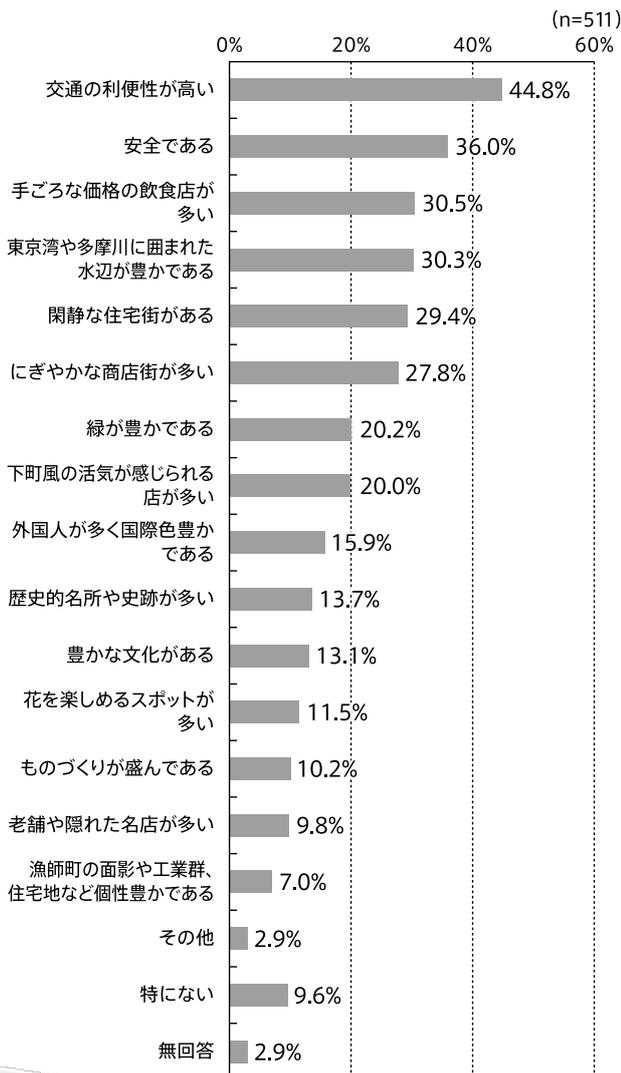
(8) 地域活動に参加する上での困りごと(複数回答)

「参加の仕方がわからない」の割合が最も高く38.2%となっている。



(9) 観光客に対しておすすめしたい大田区の魅力(複数回答)

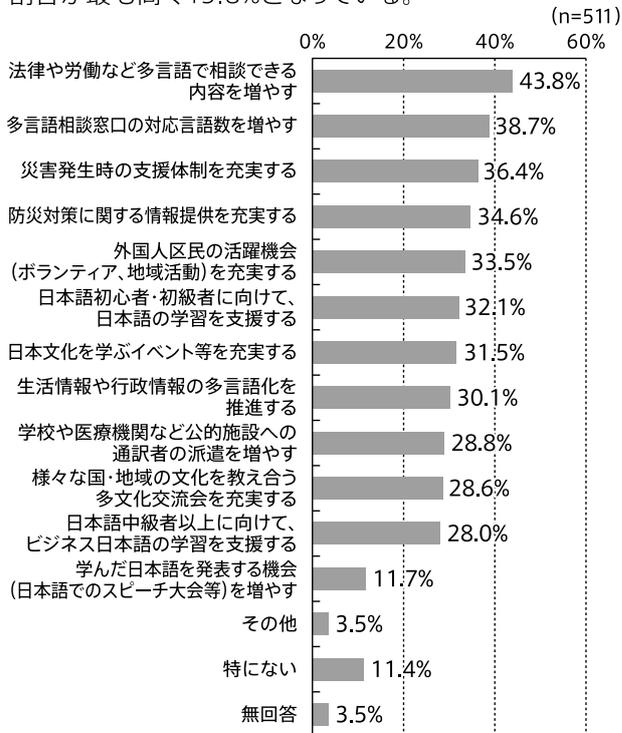
「交通の利便性が高い」の割合が最も高く44.8%となっている。



⑦ 多文化共生のまちづくりについて

(1) 国際都市おおた協会に期待する取組(複数回答)

「法律や労働など多言語で相談できる内容を増やす」の割合が最も高く43.8%となっている。



(2) 国際都市おおた協会に最も期待する取組(単一回答)

国際都市おおた協会への期待について、「特になし」または「無回答」以外を回答した人に、最も期待する取組を尋ねた。「法律や労働など多言語で相談できる内容を増やす」の割合が最も高く11.5%となっている。

